

第2学年 音楽科学習指導案

日 時 令和3年9月3日（金）
子ども 2年

I 題材名

「ようすをおもいうかべよう」
『たまごのからをつけたひなどりのバレエ』
（新しい音楽 教育芸術社 p.50～p.51）

＜授業の見どころ＞

子どもたちが身体表現をしながら交流し、曲が表す様子をとらえるようにします。

II 題材の指導構想

1 題材について

- 子どもたちは、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったり、音楽を聴いたりすることに前向きに取り組んでいる。これまでの学習で、音色やリズム、速度、強弱などの音楽を形づくっている要素が、音楽のよさや面白さにつながっていることに気が付いている子どもが多くいる。特に、反復や音色については、自分たちの生活の中の音や音楽とのつながりを自ら見付け、その面白さについてグループや全体で共有する学習活動をしている。しかし、それぞれの音楽を形づくっている要素を、曲の持つ雰囲気や味わいと関連付けて自分の思いをもっている子どもは多くない。今までの学びの文脈を生かし、自分が聴き取ったり、感じ取ったりしたことを様々な意見をもった友達と交流することで、音や音楽のよさや面白さ、楽しさ、美しさについてより深く聴き取ったり、表現したりできるようにする必要がある。

- 本題材は、歌詞が表す様子や音楽を聴いて想像したことと、音楽を形づくっている要素とのかかわりについて気付き、曲のよさや面白さを見いだしながら聞いたり、思いをもって表情豊かに表現したりすることができるように学習を進める。

歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、言葉の感じを生かした歌い方や声の出し方を工夫して歌う学習を深め、思いをもって歌うことの大切さや心地よさを押さえるとともに、きれいな発音や発声に気を付けて歌う習慣を身に付けられるように学習を展開していきたい。また、鑑賞の学習においては、演奏方法の違う同一曲を比較聴取することで、音色と曲想とのかかわりに気付くことができるようにする。より想像力を働かせて音楽と関わることができるように、曲の感じに合わせて体を動かしたり、聴いて感じたことを友だちと伝え合ったりして、場面の様子やその変化を想像しながら曲全体を味わって聴くことができるようにする。

- 指導に当たっては、次の2点に留意する。

一点目は、**必然性のある課題設定【手だて1】**についてである。題材曲を構成する音楽を形作っている要素の中で、聴いた誰もが同じように聴き取れることを子どもが思考する拠り所として課題を設定することで、一人一人の課題意識を醸成する。そのために、子どもたちの生活の中にある音や音楽とかかわりのある写真や絵を提示したり、同一曲でも演奏方法が違う曲を比較聴取したり、旋律線を描いて曲のもつイメージを共有したりする。**全校研究とのかかわり「つなぐ」**

二点目は、**学び合いの工夫【手だて3】**についてである。音楽活動の中で、自分と同じ意見をもった人と話し合うことで、自分の思いを確かなものにできるようにする。また、自分と違う意見をもった人と話し合うことで、題材曲を違う視点から考え、音や音楽のもつよさや面白さ、楽しさや美しさをより豊かに感じるできるようにする。そのために、同質グループと異質グループでの話し合いを授業の中に意図的に位置づける。**全校研究とのかかわり「つなぐ」「つかう」**

2 学びの文脈に基づいた単元構想図

題材の目標

- (1) 曲想と歌詞の表す様子、旋律、強弱や速度などとの関わりに気付いている。自分の声や楽器の音色に気を付けて表現する技能を身に付ける。
- (2) 曲想と歌詞の表す様子、音色、旋律の音の動き、強弱や速度などとの関わりを考え、歌い方や演奏の仕方について思いをもったり、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 友達と話し合いながら、思いをもって曲想に合う表現の仕方を工夫したり、曲想に合う体の動きを付けて音楽を聴いたりする学習に楽しんで取り組む。

題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①[知技] 歌詞の表す様子や声の音色、リズム、旋律と曲想との関わりに気付く、自分の歌声や発音に気を付けて歌う技術を身に付けて歌っている。	思① 音色や旋律、強弱、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見いだして聴いている。	態① 歌詞の表す情景や気持ちが伝わるような歌い方に興味・関心をもち、友達と話し合いながら歌う学習に楽しんで取り組もうとしている。
②[知] 音色や旋律の反復、変化と曲想との関わりに気付いている。	思② 歌詞の表す情景や気持ちを想像し、声の音色、旋律、強弱や速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、声の出し方や表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。	態② 曲に合わせて体を動かしたり、友達と話し合っ自分や友だちの考えたことを試したりしながら、音楽を聴く学習に楽しんで取り組もうとしている。
③[知技] 音色や旋律の反復、フレーズと曲想の関わりに気付く、音色に気を付けて鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けて演奏している。	思③ 音色や旋律の反復、強弱の違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのように表現するかについて思いをもっている。	態③ 歌詞の表す情景や気持ちに興味・関心をもち、音色や旋律に気を付けながら、表現する学習に楽しんで取り組もうとしている。

復興教育との関連

○ いきる「③価値ある自分」

楽曲に対する自分の思いや意図を交流し理解する場面において、互いに理解しようとしたり認め合ったりすることで、自分の楽曲への思いや意図を価値あるものとして受け入れられていると感じ、自己有用感と自己存在感を感じるとともに自己肯定感を高める。

○ かかわる「⑨仲間とのつながり」

互いの考えを理解し合うことで自分の考えを深めたり、楽曲への思いや意図を広げたりしていることに気付かせる。

他教科・領域等

体育 2年9月
「表現遊び」
・身近な題材の特徴をとらえ、全身で踊ることができる。

行事 2年10月
「全校音楽集会」
・音楽を形づくっている要素から曲に対する思いをもち、友達と力を合わせて表現を工夫する。

資質能力の高まり

教科の学習内容

1年9月
音色・旋律

ようすをおもいうかべよう
『きらきらぼし』
『ほしぞらのおんがく』
『はる なつ あき ふゆ』

本題材 2年9月
音色・旋律・反復・速度

ようすを おもいうかべよう
『たまごのからをつけたひなごりのバレエ』

3年8月
リズム・旋律・反復・変化
曲のかんじを生かそう
『メヌエット』

他教科・領域等

行事 2年5月
「スポーツフェスタ」
・曲想に合わせて、リズムよく踊っている。

学校生活
「今月の歌」
・歌詞や曲想に合わせて表現する。

見方・考え方を働かせるポイント

- 曲想と音色や速さとのかわりに気付くこと
題名の動物を予想させたり、音色や速度を変えた楽曲と音楽に合わせた動きを比較させたりする。
- 他とのかわりの中で演奏のよさや楽しさ、面白さを味わって聴くこと
同質グループと異質グループで交流することで、一人一人の題材曲への思いを深める。

願い

- ・ 曲によって感じ方が違うのはどうしてか知りたい。
- ・ 友達がどのように感じているのかを聞きたい。

教科の力

- 音楽表現をよりよいものにしたいと思っている子どもが多い。
- 音楽を形づくっている要素を根拠として自分が感じた音楽のよさや面白さを話すことができる子どもは少ない。
- 友達の考えや音楽表現を受けて、自分の音楽表現を見直したり、よりよいものを目指して工夫したりする態度は、十分ではない。

子どもの実態

3 題材の指導及び評価の計画（全7時間）

時	◎ねらい　○学習内容 働かせる見方・考え方	◆研究の手立て	評　価 （評価方法）			
			知技	思	態	評価方法
◎ 「あのね、のねずみは」の歌詞や曲の感じを生かして歌う。						
1	○ 歌詞の表す様子を想像し、リズムに気を付けて歌詞唱する。 ○ 歌詞の表す様子や旋律のリズムを生かした歌い方を工夫して歌う。 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、リズム）とその働きを生かした表現	手だて2 学習方法の選択 ◆歌詞の表す様子 を表現する方法 を選択させる。 →【えらぶ、つなぐ】	↓	↓	↓	態① 行動観察 発言内容 ①知技 発言内容 演奏聴取
◎ 「たまごのからをつけたひなどりのバレエ」の曲が表す様子を思い浮かべながら聴く。						
2 本 時	○ 速度や音の高さと曲のよさやおもしろさ、楽しさとのかかわりに気付く。 音楽を形づくっている要素（速度、音色）とその働きを生かした表現	手だて1 必然性のある課題設定 ◆課題意識を醸成するための題材 曲との出合い方の工夫 →【つかう】	↓		↓	態② 行動観察 ②知 行動観察 発言内容 ワークシート
3	○ 曲の表す様子を思い浮かべながら、旋律の反復と変化に付き、曲が表す様子の移り変わりを楽しんで聴く。 音楽を形づくっている要素（旋律、反復、変化）とその働きを生かした表現	手だて3 学び合いの工夫 ◆異なったグループでの学び合いの場の設定 →【つなぐ】	↓		↓	思① 行動観察 発言内容 ワークシート
◎ 「夕やけこやけ」の歌詞の様子を思い浮かべながら歌う。						
4	○ 歌詞の表す情景を想像しながら、歌詞唱する。	手だて4 生活とつなげる場面の工夫 ◆学校生活（今月の歌）や行事（全校音楽集会）で学習を生かす場面の設定 →【つなぐ、つかう】			↓	（態①） 行動観察 思② 発言内容 演奏聴取
5	○ 歌詞の表す情景、旋律や速度などと曲想とのかかわりを考えて、歌い方を工夫する。 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、強弱）とその働きを生かした表現				↓	
◎ 「小ぎつね」の場面の様子を思い浮かべながら、歌ったり演奏したりする。						
6	○ 歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌う。 ○ 旋律や強弱、速度と曲想とのかかわりを考えて、歌い方を工夫する。 音楽を形づくっている要素（強弱）とその働きを生かした表現	手だて2 学習方法の選択 ◆自分が思い浮かべた様子 を表現する音楽活動や技能を選ぶ場面の設定 →【えらぶ、つかう】	↓	↓	↓	態③ 発言内容 演奏聴取 （思②） 発言内容
7	○ 旋律の反復やフレーズを意識して、旋律を演奏する。 ○ 音色や旋律と曲想とのかかわりを考え、強弱の仕方を工夫して表現する。 音楽を形づくっている要素（音色、旋律、強弱）とその働きを生かした表現		↓	↓	↓	③知技 発言内容 演奏聴取 思③ 発言内容 ワークシート

Ⅲ 本時の指導

1 目標

- 曲想と音色や速度とのかかわりに気付く。

2 評価規準

【知識】

- ・ 曲想と音の高さや速度とのかかわりに気付いている。
- ＜努力を要する状況の児童への手立て＞
- ・ グループの中で音楽に合わせて体を動かしている子どもを真似するようにうながし、どうしてそのような動きをしているのかについて考えさせる。

3 展開（2／7時）

段階	・学習活動 ○発問	時間	◆研究にかかわる手立て 予想される子どもの反応	・留意点 【評価】
導入	1 学習課題の把握 ・ 題名を伏せて聴かせ、どのような動物が踊っているのか想像して聴かせる。 ○ どのような動物が踊っているのでしょうか。 ・ 「たまごのからをつけたひなどりのバレエ」の始めの部分を聴く。 2 課題を設定する どのような動物が、踊っているのかな。 ・ 曲想を感じ取り、踊っているのは何か、その理由を考えて、学習カードに書く。 ・ どのようにして課題を解決したいか考える。	10 5	手立て1必然性のある課題設定 ◆ 題名を想像させることで楽曲を聴く視点を焦点化する。出された意見の中で、音楽を形づくっている要素を板書することで、一人一人の本時の課題意識を醸成する。 →【つかう】 高い音がたくさん聴こえたよ。小さい動物かなあ。	・ 楽曲の始めの部分だけを聴かせることで、本時のねらいを焦点化し、楽曲の音楽を特徴付けている要素に注目させる。
展開	3 学習課題の解決 (1) 体を動かしながら、曲を聴く。 ・ 自分で考える。 ・ グループでほかの人の意見を聞く。 ・ 別のグループでほかの人の意見を聞く。 ・ 全員で話し合う。 (2) 音楽的な見方・考え方を使って本時の学習を深める ・ 曲の題名を知る。 ・ ひな鳥の動きを想像して、曲に合わせて体を動かしながら聴く。 ・ 速度だけを変えて曲を聴く。 ・ 音の高さだけを変えて曲を聴く。 ・ 曲想と音の高さや速度とのかかわりについて考える。	10 5	手立て3学び合いの工夫 ◆ 様々な人の考えを聴いたり、自分の考えを話したりすることで、いろいろな感じ方のよさを知り、考えを広げたり深めたりする。 →【つなぐ・えらぶ】 手立て2音や音楽のよさを 実感する学習方法の選択 ◆ 音楽の構造を焦点化した演奏を聴かせることで、音楽から喚起される自己のイメージや感情が、音の高さや速度とのかかわっていることに気付く。 →【つなぐ・えらぶ】	・ 体を動かしながら聴かせることで、曲想をとらえさせる。 ・ 体の動きを比較することで、音の高さや速度が曲想とのかかわっていることに気付かせるようにする。 【2知】 曲想と音の高さや速度とのかかわりに気付いている。 〈発言内容、ワークシート〉
終末	4 振り返りを行う 5 次時の見通しをもつ	5	ゆっくり演奏すると、そうが踊っているみたいだね。	・ 本時の学習を通して、楽曲の感じ方や聞き方が変容したことを価値づける。
【振り返りの表現例】 ① 同じ曲でも音の高さや速さが違うと、題名の感じと変わってくることが分かって、面白かった。 ② ほかの曲も、音の高さや演奏するスピードを変えて演奏してみたい。				